

熊野古道カンキツの香り入り入浴剤の開発

工業研究所 医薬品・食品研究課, 農業研究所 紀南果樹研究室, 関係企業

研究内容

背景・目的:

東紀州地域のカンキツ類を主体とした第一次産業を活性化し、平成16年7月に世界遺産に登録された『熊野古道』を訪れる観光客へのおもてなし商品を開発することを目的として、産学官等の多様な主体と連携しながら、県内関係事業者等と共同して入浴剤の開発に取り組みました。

研究結果:

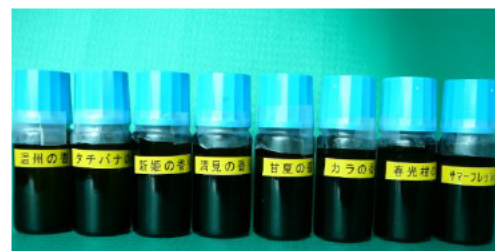
- ・地域特産カンキツの中から8品種を選択し、香料化を行いました。
清見, カラ, 甘夏, 春光柑, タチバナ, 温州, 新姫, サマーフレッシュ
※「春光柑」の香りが企業により保湿クリームに採用、商品化されました。
- ・8種類の香料に対して官能試験等を行い、入浴剤対象品種として5品種（タチバナ, 清見, 甘夏, 新姫, サマーフレッシュ）を選定しました。

・香料の素材化

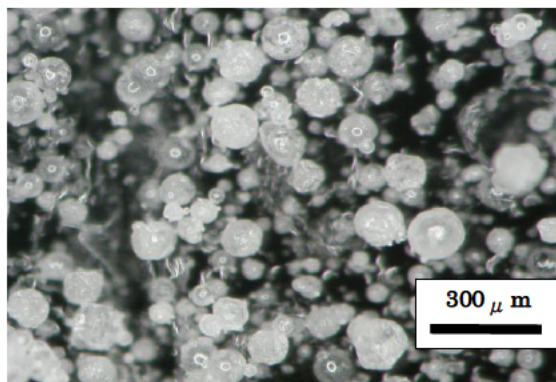
入浴剤以外への商品展開を考慮し、香料の粉末化（マイクロカプセル化）を検討しました。

スプレードライ法により、「タチバナ」の香りの粉末香料を試作しました。

- ・タチバナの香りの入浴剤の処方設計を行い、企業との共同でタチバナの香り入り入浴剤「古道のにごり湯」を開発しました。



8種類のカンキツ香料



粉末香料の実体顕微鏡写真

右)タチバナの
香り入り入浴剤

「古道のにごり湯」(県内企業
により商品化)

